

会計制度応用研究 講義シラバス

担当 首藤昭信 (神戸大学経済経営研究所 准教授)

E-mail shuto@rieb.kobe-u.ac.jp

1. 授業のテーマと目標

【授業のテーマと目標】

本講義では、会計情報が経済社会のどのような局面で利用されているかを理論的に考察し、会計情報を利用した戦略的・効率的な意思決定を探求します。具体的には、人事システム、債務契約、戦略的ディスクロージャーおよび証券投資といった局面における、会計情報の機能を確認し、その戦略的な活用方法を習得します。さらに講義の後半部分では、近年実務界でも注目を浴びている、利益調整 (earnings management) について解説を行います。利益調整とは会計基準の範囲内で行われる経営者の利益操作を意味しますが、利益調整の見抜き方や投資戦略への応用方法などを学びます。

【成績評価方法と基準】

成績は、出席と小テストによる平常点 (40%)、複数回の課題レポート (60%) によって評価します。クラス討議における貢献は加点します。

【履修上の注意 (関連科目情報等を含む)】

本講義は、「応用研究」となっていますが、会計制度や簿記の高度な知識は必要としません。会計の知識がまったくない人でも理解できるような講義をしたいと思っています。

【オフィスアワー・連絡先】

講義での質問は、講義の終了後に随時受け付けます。また個別面談を希望する場合には、メールで予約を取ってください。

研究室：〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 2-1

神戸大学 経済経営研究所 兼松記念館 124 研究室

E-mail：shuto@rieb.kobe-u.ac.jp

【学生へのメッセージ】

本講義は、簿記などの資格試験とは異なり、財務諸表の作成方法ではなく、その戦略的な活用方法に注目した講義になります。会計学の先進的な研究の知識について、実務への応用可能性と分かりやすく伝えることを追求して、会計学の可能性を感じてもらえるような講義をしたいと思っています。

【テキスト&参考書】

本講義の内容は多岐にわたるため、指定のテキストは利用しません。教員が毎回レジュメを用意します。また各單元ごとの参考書については、講義中にリーディング・リストを配布します。本講義の内容と関連が深い参考書としては、下記の2冊があります。

首藤昭信 (2010) 『日本企業の利益調整』中央経済社
須田一幸 (2000) 『財務会計の機能』白桃書房

2. 講義スケジュール

下記のような講義計画を予定しています。講義内容は受講者の関心や習熟度に応じて多少変更する場合があります。受講生による討議とプレゼンテーションは随時行っていきます。

第1回 イン트로ダクション (5月22日2時限)

[講義の概要]

イントロダクションとして、本講義のテーマとスケジュールを説明し、講義を受講することによって得られる知識体系とスキルを明確にする。

[講義トピック]

- 講義のテーマと目標
- 講義スケジュール
- アンケートの実施

[参考資料]

なし

第2回 会計情報と意思決定 (5月29日1時限)

[講義の概要]

会計情報の開示の効果を理論的に説明し、会計情報の分析および戦略的な活用がもたらすベネフィットを確認する。本講義のすべてのトピックのベースとなる理論的基礎をここで習得する。

[講義トピック]

- 情報の非対称性と会計情報
- 逆選択と会計情報
- モラル・ハザードと会計情報
- 財務会計の意思決定支援機能と契約支援機能

[参考資料]

須田一幸 (2000) 『財務会計の機能』白桃書房, Scott, W. R. 2008. *Financial Accounting Theory*. 5th ed. Tronto, Ontario: Pearson Prentice Hall.

第3&4回 インセンティブ契約と会計情報 (5月29日2時限, 6月5日1時限)

[講義の概要]

日本でも経営者報酬契約といったインセンティブ契約が根付いてきたが、効率的なインセンティブ・システムの設計と、その中で会計情報が果たす役割について説明する。理論的な説明だけでなく、実証研究の結果や企業の具体的な事例を取り上げて検討する。

[講義トピック]

- エイジェンシー理論と効率的なインセンティブ・システム
- 利益連動型報酬制度
- 米国の経営者報酬契約の事例
- 日本の経営者報酬契約の事例

[参考資料]

須田一幸 (2000) 『財務会計の機能』白桃書房, 乙政正太 (2004) 『利益調整メカニズムと会計情報』森山書店, Balsam, S. 2008. *An Introduction to Executive Compensation*, Academic Press. Scott, W. R. 2008. *Financial Accounting Theory*. 5th ed. Tronto, Ontario: Pearson Prentice Hall.

第5&6回 債務契約と会計情報 (6月5日2時限, 6月12日1時限)

[講義の概要]

社債発行や銀行借入といった債務契約に注目し、債務契約を効率化するために会計情報が果たす役割について説明する。理論的な説明だけでなく、実証研究の結果や企業の具体的な事例を取り上げて検討する。

[講義トピック]

- 負債のエイジェンシー費用と会計情報
- 財務制限条項 (財務上の特約) の設定
- 債務契約と保守主義
- 日本の債務契約の事例

[参考資料]

須田一幸 (2000) 『財務会計の機能』白桃書房, Scott, W. R. 2008. *Financial Accounting Theory*. 5th ed. Tronto, Ontario: Pearson Prentice Hall.

第7&8回 IRと会計情報 (6月12日2時限, 6月19日1時限)

[講義の概要]

企業が任意に行う情報開示であるIR (Investor Relations: IR) の意義と経済的な効果について議論する。またIRが優良な企業の開示例に着目して、戦略的な情報開示のポイントについて検討する。

[講義トピック]

- IRの意義
- 情報開示が資本コストに与える影響
- 情報開示のその他の経済的影響
- IR優良企業の開示例

[参考資料]

須田一幸編著 (2004) 『ディスクロージャーの戦略と効果』 森山書店.

第9&10回 投資戦略と会計情報 (6月19日2時限, 6月26日1時限)

[講義の概要]

会計情報の開示と株価形成の関係について議論する。具体的には、会計情報が株価に織り込まれるプロセスについて理論的な整理を行い、財務分析にもとづく投資戦略の可能性を検討する。

[講義トピック]

- 効率的市場と会計情報
- リスクとリターンの推計と会計情報
- パンピング戦略と会計情報
- アクティブ戦略と会計情報

[参考資料]

桜井久勝 (1991) 『会計利益情報の有用性』 千倉書房, 須田一幸 (2000) 『財務会計の機能』 白桃書房, Scott, W. R. 2008. *Financial Accounting Theory*. 5th ed. Tronto, Ontario: Pearson Prentice Hall.

第11&12回 利益調整：定義と見抜き方 (6月26日2時限, 7月3日1時限)

[講義の概要]

経営者が会計基準の規定の範囲内で行う会計操作である、利益調整 (earnings management) に関する知識の習得を行う。ここでは利益調整の定義を明確にして、粉飾決算との相違や、利益調整が利益の時系列特性に与える影響を議論する。また経営者の利益調整を見抜く方法についても説明する。

[講義トピック]

- 利益調整の定義
- アクルーアル・リバース (accrual reverse)
- 利益調整の見抜き方 (1) : 会計手続き選択の変更
- 利益調整の見抜き方 (2) : ジョーンズ・モデルを利用した裁量的発生高の把握

[参考資料]

首藤昭信 (2010) 『日本企業の利益調整—理論と実証—』 中央経済社, 須田一幸 (2000) 『財務会計の機能』 白桃書房, Scott, W. R. 2008. *Financial Accounting Theory*. 5th ed. Tronto, Ontario: Pearson Prentice Hall.

第13&14回 利益調整：動機と投資戦略への応用 (7月3日2時限, 7月10日1時限)

[講義の概要]

経営者が行う利益調整の動機について検討を行う。経営者報酬契約や債務契約といった契約関係や、株価のマネジメントといった要因が利益調整の動機となっていることを確認する。また利益調整に関する知見にもとづく投資戦略の可能性についても実証研究の成果にもとづいて議論する。

[講義トピック]

- 利益調整の動機 (1) : 契約
- 利益調整の動機 (2) : 株価形成
- 利益調整と投資戦略
- アクルーアル・アノマリー

[参考資料]

首藤昭信 (2010) 『日本企業の利益調整－理論と実証－』中央経済社, Scott, W. R. 2008.
Financial Accounting Theory. 5th ed. Tronto, Ontario: Pearson Prentice Hall.

第15回 講義のまとめ (7月10日 2時限)

[講義の概要]

本講義で得られた知見の要約を行う。また時間的な余裕があれば、受講者によるグループ報告を行う。

[講義トピック]

- 講義の要約と実務への適用
- グループ研究報告